

西郷隆盛

鹿児島は、明治維新に貢献した人物を多く輩出した。その中、最も著名な人物は日本のラストサムライとも呼ばれる西郷隆盛である。西郷は鹿児島人に愛され、彼の肖像画や似顔絵などは鹿児島市電の広告から食品の包装まであらゆる場所に遍在する。東京の上野公園の入り口にも西郷の銅像が建てられた。西郷隆盛がこのように人気になったのは何故であろう？

西郷隆盛は1828年に薩摩藩の下級武士の長男として生まれた。地方の農政担当職員として勤め、わずかな手当しかなく、父親の収入と合わせても10人の大家族を支えることは非常に厳しかった。

1854年、西郷は薩摩藩主の島津斉彬に認められ、斉彬の懐刀的な存在として出世街道を歩んだが、庶民が苦しい生活をしていることを忘れず、明治政府の高官として就任した後でも、高価な洋服の着用や贅沢な接待などを避け、自分で草履を編んだり、釣り用の擬似餌を作ったり、愛犬と猫をしたりするなど質素な生活を送っていた。

内憂外患

1853年、アメリカ海軍のペリー提督が艦隊を率いて鎖国をしていた日本へ来航し、開国への交渉を要求した。アメリカに対する回答に戸惑っていた江戸幕府は各藩の大名の意見を求めた。この外圧に悩まされ、江戸幕府の政権は急激に弱体化していった。西郷は、日本の将来のため、天皇を中心とするしっかりした国作りを模索した。

薩長同盟と戊辰戦争

1866年、西郷は長州藩と軍事同盟を締結した。1868年1月27日、戊辰戦争が勃発し、京都の鳥羽・伏見にて西郷が率いた官軍は旧幕府軍と武力衝突した。この戊辰戦争は1869年の春まで続き、北海道にて旧幕府軍の最後の海軍部隊が降参することにより幕を閉じた。西郷は官軍総参謀として戊辰戦争に参戦し、卓越した功績を残し、たくさんの部下の信頼を得た。

明治維新と岩倉使節団

明治政府は新国家の基礎を振起するため、50名を超える政府首脳陣による岩倉使節団が組織され、1871年から約2年間、西洋諸国を視察した。西郷は、岩倉使節団が欧米外遊中の留守とともに廃藩置県の後始末を行うために留守政府を任された。

使節団出発後、留守政府は学制や地租改正や太陽暦の採用など様々な改革を積極的に行ったが、人事を巡る問題と西郷隆盛の遣韓問題を巡って留守政府と岩倉使節団の対立が激化し、「明治六年の政変」に至る事となった。1873年9月、西郷は陸軍大将の官職を辞任し、追従者と故郷の鹿児島に帰郷した。

西南戦争～日本の最後の内戦とラストサムライ

下野した西郷は1873年11月に鹿児島に帰着し、政治活動には加わず、遊猟したり、温泉休養したりしていた。また、当時鹿児島では無職の血気盛んな壮年者があふれ、西郷は彼らをまとめなければ若者たちが道を誤ると考え、有志を集め私学校を創立した。しかし、1876年に廃刀令や徴兵令などが制定されると、士族最後の特権が剥奪されたことに、彼らは憤慨した。

一方、明治政府は、鹿児島県士族の反乱がおきるのではと警戒し、1876年の年末から翌年の1月にかけて、鹿児島県下の火薬庫から火薬を運び出させることと、私学校の瓦解、または西郷と私学校を離間させることなどを試みた。これに憤慨した私学校の生徒が火薬庫を襲い、西南戦争が勃発した。

西郷軍は当初勇敢に戦っていたが、弾薬や兵隊の人数などで圧倒的な政府軍により最終的に鹿児島市の城山に包囲された。1877年9月24日、政府軍が城山を総攻撃し、西郷は被弾し、城山で戦死した。享年51歳であった。

西郷の死により日本最後の内戦が幕を閉じた。最後まで侍らしく生きてきた西郷隆盛は、侍の精神と美德の化身として見られ、後世にラストサムライの名を残す。

Reference 参考文献

- Peter Duus, *Modern Japan* (Boston: Houghton Mifflin Company, 1998, 2nd Edition)
- Marius B. Jansen, *The Making of Modern Japan*, (Massachusetts: The Belknap Press of Harvard University Press, 2000)
- Mark Ravina, *The Last Samurai: the Life and Battles of Saigō Takamori* (John Wiley & Sons, 2004)

Image Use 画像使用

1. Commodore Matthew Calbraith Perry.png (Mathew Brady; [Public domain] via Wikimedia Commons)
2. SaigoTakamori1332.jpg (Takamura Kōun; [Public domain] via Wikimedia Commons)
3. Iwakura_mission.jpg [Public domain] via Wikimedia Commons
4. SaigoWithOfficers.jpg [Public domain] via Wikimedia Commons